



# 2023年5月～7月雑感

4月に本誌 No.131 を出した後に、気になる出来事が連続しました。そこで、毎月の私の特記事項を取り上げ、雑感をご紹介します。

## 【5月の鹿児島の風景】

この5月下旬、鹿児島県鹿屋市で開催されたハンセン病市民学会の分科会でアーカイブについてのプレゼンのご依頼をうけ、何とか責めを塞いできました。ハンセン病をめぐる政治的社会的動向は、新聞の見出しで目にする程度で、真面目に考えたこともなかった私には、新しい課題をいただき、これまでとは異なるアーカイブの見方を考える必要に迫られました。それと、地理的な意味で鹿児島県は、関東在住の私には、相当の距離を感じました。

会場から空港までバスに乗りましたが、自動車専用道路はよく整備されていて、周辺の緑は時期的に若葉から青葉への移行期だったから、それは見事な景観でした。ですが--、そこここに、こっそり産業廃棄物集積所が見えていました。我々の生活の中から不要となった金属とかプラスチックとか、その手の腐らない朽ちない廃棄物が、緑豊かな山林のちょっと陰になってるあたりに、ひそやかに集積されていて、その後どうなる、どうするという見通しが見えないまま人目を忍んで身を寄せ合っているような感じがあって、現代文明のカゲの部分強く印象付けられました。それって、参加してきたハンセン病市民学会という学会に参集された人々（私もその一人）の当事者的立場となんだかつながっているようにも感じたところです。

数年前に「記録管理学体系化」を課題に設定し、あれやこれや考えたことがありました。結局十分な成果を得ることなく、課題はまだたなざらしになっています。今回のハンセン病市民学会でのプレゼンでは、この体系化研究の不十分に改めて向き合い、我が身の至らなさを嘆く結果でありました。それでも、「ICA アーキビストの倫理綱領」という文書を参集の皆様にご

紹介できたことは、アーカイブ側から考え、一定の成果になったようにも感じました。

## 【6月のプリゴジン反乱】

6月は、ロシアのプリゴジン反乱、フランスの民衆暴動が私には印象的でした。プリゴジンの反乱は、これがきっかけでロシアのウクライナ侵攻が大きく変化するのではないかと、勝手に期待してしまっただけですが、あっという間に腰砕けだったような気がします。ほとんど同時並行でフランスのアフリカ系少年射殺を問題とした大規模な「暴動」が起きたことで、フランスにもアフリカ系の人々の鬱屈した思いがあることが見えたと感じました。そういう思いがあるのは当然だと思うけど、テレビニュースばかりを頼ってはい、その辺のことがあまり明確にはわからない、っていうかこちらの理解力が追いつかないということを感じました。

## 【7月の中国外相神隠し?】

中国の秦剛外務大臣が突然姿を見せなくなつて約一か月、前任の王毅が外相に復帰が報じられました。が、その背景情報は明らかにされていないから、わかりません。

しかし、こういう出来事はとても気味悪いものです。隣の家の中で何が起きているのかは、ご近所としては決して無関心ではられません。札幌の首無し殺人事件では、犯人一家の住居がテレビでも放映されていて、のぞき見たい気持ちになりますが、そのTV画面を見てしまった後は、自分自身の本性が引きずり出されたような感じがして、不快になってしまいます。

そう考えると、なんだか人間の権力欲とか物欲をあまり生々しく突きつけられたように感じられ、昨今の猛暑が一層こたえます。でも、皆様にはくれぐれもご自愛ください。(ち)

【ナスの日通信 7月号既報】

## おもな内容

## DJIRレポート No.132 20230815

## 【アーキビストの散歩道 (1) ~ (5)】

### (1) 参加記 ハンセン病市民学会大会@鹿屋市民会館他

2023年5月20~21日、鹿児島県鹿屋市で開催されたハンセン病市民学会に、ご縁あって参加した。21日午前中の分科会Bは、遠藤隆久先生(熊本学園大学名誉教授)のご尽力と、原田利寿さん(熊本愛生園学芸員)、下重直樹先生(学習院大学大学院)、松岡弘之先生(岡山大学)の活発なプレゼンで、「ハンセン病療養書の公文書の取扱いについて」はとても良い感じで終始した。

筆者はアーカイブの基本原則等の説明とアーキビストの倫理綱領の第8項読み上げなど、いささか無味乾燥の排りを免れぬ発表に終始した。ハンセン病資料との接点を見いだしかねていたので、主催者から求められた課題「アーカイブの基本」の解説について、発表をおえた後は、その出来栄には大きな不安が残った。

この分科会では、アーカイブ分野ではなく、ハンセン病とその社会的対応、受容が主要なテーマであった。すなわち、私にはまったく新たな分野に向き合うという、



大変良い勉強の機会であった。ハンセン病資料という未知の領域に取り組むことになったのである。私には全く新たな分野であることを踏まえ、プレゼンの方法やセッションの構築など、司会進行の遠藤先生はじめ、パネルの諸先生には懇切丁寧なご指導を賜った。学校を離れて以来半世紀余り、久しぶりに「教わる」「学ぶ」というありがたい経験を得た。すべてに感謝の大会だった。(ち)

### (2) 参加記 記録管理学会総会 0527 お茶の水女子大学

コロナ明け、対面で開催される記録管理学会(RMSJ)総会に参加した。場所は都内茗荷谷のお茶の水女子大学。ここは、半世紀以上も昔、学生時代に一度か二度、部活がらみで足を運んだ記憶があるキャンパスだ。

随所に案内表示があるので、無事会場まで到着した。会場には懐かしい顔ぶれ。総会は、型どおりに進んだが、総会資料に誤植が多いのに辟易。導入間もないソフトに苦戦とか。懇親会はとても楽しかった。

### (3) 参加記 全史料協関東部会総会 0602 武蔵野スイングホール

土砂降り荒天の当日だったが、久しぶりの関東部会総会に出かけた。RMSJと同じく、懐かしい顔ぶれに気持ちちが和む。総会基調講演は東大先端研の牧原出先生「管理の制度化：意思決定と文書保存のはざままで」。先生は

2005~2007に公文書管理の法整備にむけたNIRAの委員会でご一緒した方だ。公文書のありようと役所での事業の動きがどのように連動するのか、という視点で「作動」として説明されたと思うが、難解だった。

### (4) 切抜き【中日新聞 20230619】



#### 安曇野市文書館 開館 5 周年記念講演会

安曇野市文書館で開催中の開館五周年を記念する企画展「残した 伝えた この5年」に合わせ、隣接する堀金公民館で十八

日、龍谷大法学部の瀬畑源准教授(日本近現代史)が、公文書保存の意義や文書館の価値について講演した。

2018年10月の市文書館開館に携わったという瀬畑准教授は、市条例などを引用しながら開館の経緯を振り返り、「市民のために市の説明責任を果たす機関として位置付けられている」と解説した。

[龍谷大准教授が公文書保存の必要性語る 安曇野市文書館開館5年で講演：中日新聞 Web \(chunichi.co.jp\) 20230619 05:05分;0619 14:26更新](#)

### (5) 切抜き紹介【神奈川新聞 20230428 2面下段】

#### 震災アーカイブ「保全体制必要」国民・鈴木氏

東日本大震災から12年が経過し、各地で被災地の資料を収集、公開する「震災アーカイブ」を閉鎖する動きが進んでいることが、4月27日の衆院東日本大震災復興特別委員会で取り上げられた。国民民主党の鈴木敦氏(比例南関東)は「できる限り地域でもアーカイブを保全できる体制を整えてほしい」と政府に求めた。

国立国会図書館の吉永元信館長は、これまでに4件の震災アーカイブが閉鎖されたとしうえて、「1万5千件以上の震災記録を同感が引き継いだ」と答弁。震災資料を一元

的に検索できる同館のポータルサイト「東日本大震災アーカイブ(愛称・ひなぎく)」で公開しているという。

鈴木氏は、震災アーカイブの維持管理費が運営する自治体や民間団体の負担となり閉鎖に至っているとして、「現地で語り継ぐための枠組みは国で作るべきだ」と指摘。渡辺博道復興相は「観光資源や防災教育に繋がっていくつかもしいない。その意味では(震災資料が)地域で存在することは重要」と述べた。(三木 崇)

【掲載紙から引用】

◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇【凡例:●個人■機関】

■2022年のICA(International Council on Archives)フェロー4名

- Dr. Ramon Alberch i Fugeras, Spain
- Joan Boadas i Raset, Spain;2007ICA/SPA 来日 ●Dr. Trudy Huskamp Peterson, United States; 2007 ICA/SPA ; 2018WAM 講演;2022 ユネスコ講演,計 3 回来日
- Dr. Laura Millar, Canada (ICAWebSite20230414 確認)
- 菅 真城氏 2023年7月1日付大阪大学ミュージアム・リンクスに配置換、アーカイブズは兼任。(FB より)

【訃報】

●Bryan Corbet (ブライアン・コルベット) 氏 4月4日付 ICA 連絡メールで、ご家族から逝去の知らせが届

いたという内容と写真着信。これにはとても驚いた。故人は ICA 円卓会議で知己を得たブライアン。楽しい話題で場を和ませることにかけては、右に出る人はなかった。ブライアン自身の3月28日付フェイスブックには、イタリアの国立公文書館入口での記念写真がコメントなしに掲載されていた。急逝だったのだろう。ご本人のFBには、カナダ・アルバータ大学に長く奉職されたこと、1947年7月生まれということなどが列記されていた。あのサンタクロースのようなブライアン、ご冥福をお祈りいたします。合掌。

●松井 輝昭 氏 元広島県立文書館、県立広島大学。全史料協では大変お世話になった。いつも穏やかな笑顔を絶やさない方だった。広島市学研究会『史学研究』による。ご冥福をお祈りいたします。合掌

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼

●『蒐める人 情熱と執着のゆくえ』

紙資料修復工房の花谷敦子さんは旧友である。その花谷さんから頂いたのがこの本。彼女は本書37頁に似顔絵で登場する。だがその頁を開く前に、この本を手にとった途端、その著者名にとっても衝撃を受けた。というのも、実はこの著者は国際資料研究所第1回ダジャレ大賞の受賞者だから。この本をくださった花谷さんと筆者は不思議なご縁で結ばれている。高校までは同じ町育ちであること、社会人として独立独歩で仕事をしていること、という生い立ちもあるが、ある時は結構混雑した夕方の JR 中央線車内でばったり出会ったこと、そしてなぜか南陀楼綾繁さんが私たちをつなげていて、それが『蒐める人』というキーワードであること。。極めつけはこの本のオビ「自分がやらなきゃ誰がやる？ひたすら集め、しつこく調べ、記録する……収集の快楽と困惑のはざまに揺れる人へのインタビュー」恐れ入りました。南陀楼綾繁著、B5判261頁,2018,(株)高星社,東京、1600円+税

◆資料紹介「緒方貞子と UNHCR アーカイブ」

2023年3月1日、UNHCR アーカイブ課のウェブサイトにて、緒方貞子アーカイブの目録が公開された。冒頭説明に、これが日本政府の資金によるものとある。

ネット上にある UNHCR 国連難民高等弁務官緒方貞子資料目録は、検索コード UNHCR13/5、緒方貞子作成資料、作成年代1990-2000、20種類に分類されている。緒方貞子関係資料はこのほかに、本部広報資料 10c などがある。検索す

るには、UNHCR Archives and Records から検索画面で Sadako Ogata を検索、さらにこの下に詳細な目録が掲示されている。なお、これはあくまでも目録情報であって、原本画像をネット上で閲覧できるわけではない。要注意。

小林綾子著、掲載は『Cosmopolis =コスモポリス』17号 17-35頁、2023年3月30日発行、上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻『コスモポリス』編集委員会発行、東京

全文の URL : [https://digital-](https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20230330012)

[archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20230330012](https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20230330012)

▼『学報』東京雑学大学 No.78 2023.3.31

東京雑学大学事務局長の菅原珠子先生とは、1997年に学習院女子大学ネコの会で知合った。21世紀に入り、共に学習院女子大学を離れた頃、菅原先生から東京雑学大学の講師にお招きいただき、何度か講演をさせていただいた。与えられたテーマはアーカイブの基本の説明だった。

東京雑学大学での講演は、必ず原稿化が求められる、原稿は年2回の『学報』に掲載された。これまでに発行された『学報』は、東京雑学大学の地元である西東京市中央図書館他に配布し、長期保存されるはずと伺った。この学報は、No.78の発行で一旦中止となるそう。30年の歴史を跡付ける『学報』が地元の図書館等で長く保存されることを願う。(ち)

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJI レポート No.132 202230815 A4判4頁 PDF (本誌) 掲載先 URL: [www.djichiiyoko.com](http://www.djichiiyoko.com)

▼信濃毎日新聞 20230406 朝刊 15面文化欄に記事掲載【本誌5頁に記事画像】。

▼信濃毎日新聞 20230510 朝刊 15面文化欄記事「行政利用」に関する小川千代子の見解掲載。

【本誌5頁に当該記事部分転載】

## DJI 国際資料研究所の主な活動 2023年4月1日～2023年7月31日

## &lt;執筆&gt;

DJI レポート No.132 20230815 A4 判 4 頁 PDF (本誌)

ナスの日通信 4月号 メルマガ

## &lt;出講&gt;

4月29日 中央大学「アーカイブズ論」学部+大学院, 対面授業, 東京

5月21日 ハンセン病市民学会大会 部会B コメントーター 鹿屋市公民館 鹿児島県鹿屋市

## &lt;新聞記事&gt;

4月6日 信濃毎日新聞朝刊 15面文化欄 写真&amp;記事

5月10日 信濃毎日新聞朝刊 15面文化欄 行政利用に関する見解コメント掲載

## &lt;主催&gt;

6月18日 海外アーカイブ・ボランティアの会勉強会、喜源治、松本市中山

## &lt;参加&gt;

4月16日 ハンセン病市民学会大会事前打合せ 国立ハンセン病資料館、武蔵村山市、東京

4月22日, 6月24日 東海岸3丁目町内会総会(4月のみ) &amp; 役員会、東海岸市民の家、藤沢

5月16日 ハンセン病市民学会打合せ zoom

5月18日 (株)カネカ挨拶 東京本社 東京都港区

5月20-21日 ハンセン病市民学会第17回大会総会、レセプション、シンポジウム、総会、鹿児島県鹿屋市

5月27日 記録管理学会研究大会総会+懇親会 お茶の水女子大学他、東京

6月2日 全史料協関東部会総会、講演会 武蔵野市

6月18日 安曇野市文書館講演会「公文書保存の意義と文書館の価値」瀬畑源(龍谷大学准教授)、堀金公民館

6月27日 寒川文書館打合せ zoom

7月6日 寒川文書館運営審議会 寒川文書館 神奈川

7月14日 鮫光会東京総会 コーナー、東京(欠席)

7月22日 虫干クラブ アミサ、マササと崎陽軒本店、横浜

&lt;見学&gt;

4月16, 28日 国立ハンセン病資料館、武蔵村山市、東京

6月18日 安曇野市文書館開館5周年記念開館五周年記念企画展「残した 伝えた この5年」; 松本市文書館書庫

&lt;その他&gt;

4月3日; 5月7日 信濃毎日新聞オンラインと電話取材

4月10日 ラウラ先生から2022年度ルーマニア語教室修了証 DIPLOMA 拝受

4月12, 17, 24日 5月8, 15, 22日 6月5, 12, 26日 7月3, 17, 24日 ラウラ先生ルーマニア語お稽古オンライン

4月14日 ノブコさんと穴守稲荷夕食会

4月21日 紀伊國屋書店打合せ teams

4月18日 ラウラ先生とランチ 千葉県柏市

4月30日 青じその苗あげます会 小川自宅 10名参加

5月13日 アマデウス合奏団定期演奏会 藤沢市民会館

6月4日 服部梅子梅の実収穫、隣家のお庭

6月6日、16日 服部梅子梅の実ジャム加工

6月19日 喜源治オープンガーデン見学 松本

6月27日 ヒトミさんと zoom 懇談

7月10~13日 知床斜里旅行(中止)

7月17日 ケータイ電話不通、29日買換後も不調継続

4月~7月 医療機関受診録 辻堂金沢クリニック4回

つるしげ歯科3回 ほしの眼科4回 いわもと皮膚科2回

マリソル整形外科(物療衝撃波)6回 はじめクリニック(健診)2回

\*\*\*\*\*

## ■ 巻末随想

## ■ マイナンバーカードと消えた年金記録の関係は

最近、マイナンバーカード(マイナカード)の不具合をめぐるニュースが毎日のように報じられている。コンビニで住民票を取ろうとしたら、他人の物が出てきたとか、マイナカードに紐づいた銀行口座が同名異人のものだとかいう「事故」の話ばかりだ。それでも、デジタル大臣とか総理大臣は記者会見を行い、すべてを再度点検して直して、これを使う、という。で、再度点検したらまた霧、問題が発見されたという報道が出てくる。どうなっているのだろうか。

今から10年くらい前に、消えた年金記録という問題があった。これは最後の一人まで完全に調査して是正するか、どの総理大臣が豪語していたのかももう記憶の彼方になってしまった。で、その是正は全うされたのだろうか。そこんところ、だれも話題にせず、その代りにマイナカードの話が出てきて、消えた年金記録よりもさらに複雑で遺漏の多い諸問題が、次から次へと明るみに出てくる。

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電 ← DJI 電子バージョンのマーク ISSN 1342-632X

DJIレポート DJIホームページ: <http://www.djichiyoko.com> No.131 20230415発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International Email: [djiarchiv@yahoo.co.jp](mailto:djiarchiv@yahoo.co.jp) 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 phone 0466-31-5061 fax 0466-33-8535

【付録】本誌3頁「千代子のあしあと」関連画像等

信濃毎日新聞 2023年4月6日付 文化

「時代を編む 統一地方選に寄せて 公文書の重要性 国も自治体も同じ 保存のありよう「文化の物差し」国際資料研究所代表小川千代子さんに聞く

4月6日 水曜日

### 時代を編む 統一地方選に寄せて

## 公文書の重要性 国も自治体も同じ 保存のありよう「文化の物差し」

国際資料研究所代表 小川千代子さんに聞く



公文書は自治体の歴史や政策を伝える重要な資料であり、統一地方選に向けて、その重要性が改めて認識されている。国際資料研究所代表の小川千代子さんは、公文書の保存と活用について、国と自治体は同じ姿勢で取り組むべきだと訴えている。

公文書は、自治体の歴史や政策を伝える重要な資料であり、統一地方選に向けて、その重要性が改めて認識されている。国際資料研究所代表の小川千代子さんは、公文書の保存と活用について、国と自治体は同じ姿勢で取り組むべきだと訴えている。

### 県史編さんにも公文書不可欠

公文書の重要性は、県史編さんにも不可欠である。過去の記録や資料を正確に保存し、活用することで、地域の発展に貢献できる。公文書の管理や保存規定を整えることが、自治体の責務である。

公文書の重要性は、県史編さんにも不可欠である。過去の記録や資料を正確に保存し、活用することで、地域の発展に貢献できる。公文書の管理や保存規定を整えることが、自治体の責務である。

【信濃毎日新聞 5月10日付 文化欄】「市民に近い文書館へ模索」 (DJIによる転記)

所蔵する文書から地域を読み解き、資料の活用方法を学ぶ講座を開いたり、展示を工夫したり。公文書館・文書館への一般への知名度は、博物館や美術館と比べると低いとして県内各施設では市民館距離を近づけ、利用を広げようと試行錯誤が続く。

上田市公文書館は2019年の開館後まもなく新型コロナウイルス下となり苦戦。だが22年度は企画展示が好評で、来館者は800人余と前年度の2倍に。閲覧数の増加につなげることが課題で、オンラインの検索システムから資料を閲覧できるデジタルアーカイブも構想中という。

松本市文書館特別専門員の窪田雅之さん(66)は「専門家のもというイメージを払拭し、間口を広げたい。市民に身近な記録が残っていることを知ってほしい」とする。同館の利用者数は22年度約1500人で、閲覧は1100人。22年度は文書館と、市内の博物館や図書館とをつなごうと、各施設の英語の頭文字を取

った「MLA連携」に乗り出した。

「市内の重要な資料がいずれかの施設で保存されることが重要」(窪田さん)と、使節を超えた情報共有を薦め、市民が知的財産を活用しやすい基盤を強固にしたい考えだ。文書館の資料が紐づいていなかった検索サービスとの連携も見据える。2月の催しでは3施設を活用した地元高校生の研究を展示した。

安曇野市文書館は毎年夏、総合的な学習や地域の歴史学習で、文書館資料を活用してもらおうと市内の教員向けに研修している。市の全職員も3年に1回は公文書の重要性などについて研修をうけるといい、職員は文書館利用は年100件に上る。国際資料研究所(神奈川県)の小川千代子代表(74)は、行政職員が施策に活かすなどの業務で公文書館を利用すれば、同じ1回でも「一般利用に比べて市民に対する還元率が高い」との見方だ。直接、間接に市民生活に役立つ文書館の存在意義を強調する。